

氏 名：糸井和佳

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第113号

学位授与年月日：2013年9月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 教授 亀井智子  
副査 教授 中山和弘  
教授 廣瀬清人  
東京都健康長寿医療センター研究所 藤原佳典

### 博士論文審査結果

審査日：2013年8月1日

研究科委員会提出日：2013年9月3日

看護学研究科博士後期課程	氏名 糸井 和佳 甲第113号
専攻分野	老年看護学
論文題名	地域における高齢者と子どもの世代間交流観察スケールの開発
審査委員	職名・専攻他 氏名
	主査 教授・亀井智子
	副査 教授・中山和弘
	副査 教授・廣瀬清人
副査 部長・東京都健康長寿医療センター研究所 藤原佳典	

#### 審査の合否および評価（合・否）

少子超高齢社会、および核家族化が進んだわが国において、特に都市部では、近年子ども世代と高齢者世代という異世代が身近に接する機会は少なくなっており、地域における世代間の繋がり希薄になりつつある。

世代間交流は高齢者、子ども双方の互恵的ニーズを充足することに有効で、高齢者のうつ改善や生活の質の向上、また子どもにとって高齢者観を育むことなどに有効であると報告されており、教育現場や、高齢者ケア施設、保育施設などで活用され、多様な実践例が報告されているが、看護学領域において世代間交流を取り入れた看護支援の報告は少ない現状である。

博士論文の本研究では、地域における高齢者と小学生の世代間交流に焦点をあて、高齢者と小学生間の世代間交流により生じる各々の行動、言動、情動、表情などをプログラム実施者等が観察し、プログラムのプロセスとアウトカムを評価するためのするスケール(高齢者用:CIOS-E、小学生用:CIOS-C)を開発し、これらの信頼性、妥当性を検証することを

目的とした。

これまでに申請者は国内外の世代間交流プログラムの参加観察、および文献レビューを通して世代間交流プログラムの種類と効果をアウトカムモデルを用いて分析し、互惠のニーズを根拠とした、世代継承性、感情表出、異世代とのコミュニケーションによる相互作用が世代間交流であるとした仮説を導き、これをもとに、CIOS-E、CIOS-Cのアイテムプールを作成してきた。本研究では、互惠的ニーズを中心に据えた「世代継承性」「感情表出」「他者とのコミュニケーション」で構成する概念枠組みを設定し、高齢者には「交流への自己評価」「交流への満足度」「健康関連 QOL」、小学生には「社会的スキル尺度」「交流への自己評価」「交流への満足度」「社会的望ましさ尺度」を外的基準において、CIOS-E、CIOS-Cの信頼性、妥当性の検証を行った。

対象は、便宜的に抽出した東京近郊の15か所の世代間交流プログラムに参加した高齢者と小学生の中から、本研究に同意の得られた高齢者178名(平均年齢76.0歳)、小学生175名(平均年齢9.6歳)である。信頼性、妥当性の検討を行った結果、最終的に3因子7項目で構成するCIOS-E、および2因子7項目で構成するCIOS-Cを開発し、両者とも測定不変モデルが採択された。

CIOS-Eは「包容」「足跡」「子どもに教える」の3因子構造を有した測定不変モデルが採択され、Cronbach's  $\alpha=0.787$ により信頼性が確認された。CIOS-Cは「高齢者に教わる」「主体的交流」の2因子構造を有した測定不変モデルが採択され、Cronbach's  $\alpha=0.812$ により信頼性が確認された。以上から、CIOS-E、およびCIOS-Cは世代間交流プログラムにおいて、高齢者と小学生間に生じる世代間交流を世代別に観察する尺度として信頼性、妥当性があることが示唆された。

論文審査の過程では、論旨が理解しやすく、看護学への新たな貢献ができる論文であると評価されたが、次の点について指摘され、修正が求められた。

1. 全体的に考察の記述が弱い。次の点については考察を加えること。
  - 1) 概念枠組みとして設定した項目と、因子分析により最終的に採択された項目が一致していたのかについて検討し、考察を加筆すること。
  - 2) 子どもの「社会化」から見れば、小学生は低学年と高学年、あるいは性別によってレスポンスが異なるはずであるため、この点を検討し考察を加筆すること。
  - 3) 高齢者と小学生各々の中で生じていた交流はどのようなものであったのか、子どもは社会的スキルの高さと、CIOS-Cとの相関が高かったため、その理由を具体的に考察すること。
  - 4) 外的基準との関連が認められなかった項目に関する理由の考察を加えること。
  - 5) 「交流できましたか?」という質問紙調査を行っているが、小学生には何をイメージして回答をすればよいのかわからなかったとも考えられるため、むしろ、世代間交流後に小学生の中に何が残ったのかを見る必要がある。これらの測定方法の問題についても考察を加えること。
2. 分析について次の点について再検討すること。
  - 1) 小学生の学年区分とCIOS-Cとの関連の分析。
  - 2) CIOS-Cと交流の自己評価・満足度モデルのパス解析を行っているが、変数として「社会的スキル」「学年」等を加えて再度分析すること。
3. 今後の課題として、「尺度を適用する世代間交流プログラムの場や対象を拡大する」とあるが、場や対象のどのような組み合わせを今後検討する必要があるのか、そのパターンを具体的に検討する必要がある。
4. 研究目的の記述が妥当でないため、修正すること。
5. 表の一部について、内容が分かりにくいものや、順序を修正する必要があるものがあるので修正すること。
6. 文献の出版年、英文の大文字・小文字、本文中の項目番号の付け方、タイプミス、記述自体の間違い、添付資料の内容の不備があるため、修正すること。

これらの指摘事項について分析の追加を行い、本文の修正を加え、全ての事項について適切に修正が行われたことを審査員によって確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。